

# 法人・施設事業報告書

①法 人

②るりけい寮

入所支援部

通所支援部

グループホーム

③八 木 寮

社会福祉法人 あけぼの学園



# 令和6年度事業報告

社会福祉法人 あけぼの学園

令和6年度は、法人設立43年目の年であり、役職員が心を一つにして基本理念・基本方針・運営方針に基づき、各施設長（管理者）の指揮により、2施設（障害者支援施設るりけい寮・八木寮）、1事業所（通所支援センターるりけい）の健全な運営を推進することができた。一方、報酬改定の影響や、利用率の低下等に起因し、一部の事業所においては厳しい財政状況となったが、拠点区分ごと及び法人全体としては、健全な財政で決算を終えることができた。

各施設・事業所においては、必要に応じて、住環境の整備、消防設備の改修、公用車の購入等を行い、利用者がより快適に、そして安心・安全に生活できるように生活環境の整備を行った。併せて、光熱水費、食材費並びに消耗品等、未曾有の物価高に対しても、各種補助金の申請を行った。次年度以降についても利用者のニーズに応じた細かな整備を行い生活環境の更なる向上を目指したい。

また、障害者総合支援法の見直し（令和7年度より地域連携推進会議の義務化）に伴い、指定障害者支援施設における運営規程の改正、法人役職員への啓発活動、組織の構築に努めてきた。

今後も、コンプライアンスを遵守し、一層の近代化・効率化・安全化を推進するための努力により、法人の担う役割を全うする所存である。

## (役員会)

日	時	決 議 内 容	出 席 者 数
5月23日	(木)	(監事監査) ・令和5年度事業報告並びに決算監査	理事長 監事2名 各施設長
5月30日	(木)	(第1回理事会) ・令和5年度事業報告及び令和5年度計算書類並びに財産目録等の承認の件 ・各種規程等変更の件 ・定時評議員会招集の件	理事5名 監事2名 相談役1名
11月6日	(木)	(臨時理事会) ・八木寮施設長人事の件	理事5名 監事2名 相談役1名
12月12日	(木)	(第2回理事会) ・第1次補正予算の件 ・るりけい寮及び八木寮 定員変更及び運営規程変更の件	理事5名 監事2名 相談役1名
1月24日	(金)	(第3回理事会、指名業者選定委員会) ・るりけい寮旧グループホーム改装工事 指名業者(案)の件	理事4名 監事2名 相談役1名
3月28日	(金)	(第4回理事会、指名業者選定委員会) ・るりけい寮旧グループホーム改装工事 入札結果の件 ・るりけい寮非常用発電設備工事 指名業者(案)の件 ・理事、監事、評議員候補者(案)の件 ・評議員選任・解任委員会開催日時 ・定時評議員会開催日時 ・通所支援センターるりけい 将来構想の件 ・令和6年度補正予算の件 ・令和7年度事業計画の件 ・令和7年度予算の件 ・規程等変更の件	理事5名 監事2名

## (評議員会)

日	時	審 議 内 容	出 席 者 数
6月13日	(木)	(定時評議員会) ・令和5年度計算書類並びに財産目録等の承認の件 ・定款変更の件	理事長 評議員6名 監事2名 各施設長

## (入札会)

日	時	審 議 内 容	出 席 者 数
2月28日	(金)	・るりけい寮旧グループホーム改装工事に係る入札会	南丹市社会福祉課1名 理事4名 監事2名 評議員5名

# 事業報告

るりけい寮

るりけい寮における、令和6年度の利用状況は、次のとおりである。

(令和7年3月31日現在)

1. 障害者支援施設るりけい寮（入所支援部）【定員80名・当初利用者数74名】においては、年度当初に旧グループホームから6名（男子4名、女子2名）の入所者があり、その後、3名の退所者（男子1名・女子2名）があったため、現在の利用者数は77名（男子47名、女子30名）である。
2. 通所支援センターるりけい（通所支援部）【定員20名・当初利用者数24名】においては、新たに1名の通所者（男子1名）、1名の退所者（女子1名）があったため、現在の利用者数は24名（男子18名、女子6名）である。

## I. 概況

るりけい寮における令和6年度の概況について下記のとおり報告を行う。

今年度当初に障害福祉サービス等の報酬改定が行われた。職員の処遇改善については、加算率が引き上げられるとともに、これまでの処遇改善加算、特定処遇改善加算、ベースアップ等支援加算が福祉・介護職員等処遇改善加算に一本化された。それに伴い、経験・技能・職種に基づくグループごとの配分ルールも撤廃され、法人内で実態に応じた柔軟な配分を行うことが可能となり、事務的な負担が大幅に軽減された。

強度行動障害を有する利用者への支援体制の充実については、生活介護・施設入所支援に区分6以上・行動関連項目10点以上の報酬区分が新設されると共に、強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）修了者の加配要件が廃止され、生活支援員に占める研修修了者の割合での評価に改定された。さらに、上記の2事業に加えて短期入所・共同生活援助では、行動関連項目が18点以上の利用者を受け入れて中核的人材養成研修修了者が作成した支援計画シート等により適切な支援を行った場合に算定可能となる加算が新設された。上述の改定等により障害者支援施設るりけい寮の施設入所支援事業は大幅な増収となった。

日中活動系のサービスでは、生活介護の基本報酬が抜本的に見直された。具体的には、これまでの営業時間に基づく報酬設定から実際のサービス提供時間（事業所において支援を行った時間）に応じた報酬設定に改定が行われた。サービス提供時間には送迎に要する時間を原則として含めることができず、サービス提供事業所が遠隔地にあつて送迎に要する時間が往復3時間以上の場合に限り、1時間をサービス提供時間に加えることが可能とされた。基本報酬額を改定前後で比較すると、サービス提供時間が6時間以上～7時間未満であれば、約3%の減収に留まるが、5時間以上～6時間未満では約30%、4時間以上5時間未満では約40%の大幅な減収となる単価設定となっている。通所支援センターるりけい（通所支援部）の送迎サービス対象利用者18名のサービス提供時間を上述のルールに基づき算定した結果、全員が5時間以上～6時間未満の区分に該当したため、大幅な減収となり、事業の存続が困難な財政状況に陥っている。通所支援センターでは広域からの通所を可能にするため、支援員を基準以上に配置し、4コースでの送迎サービスを実施している。送迎車の維持・更新にも多額の費用が必要であることや、送迎中にも一定の支援が必要な利用者も複数名いることから、サービス提供時間に送迎に要する時間を原則として含めることができない改定には疑問を感じずにはいられないが、現在の報酬体系の枠組みの中で今後見直しが行われる可能性は極めて低いと推察される。

上述の状況を受け、3月の理事会において通所支援センターの将来構想について協議を

行った結果、次回の報酬改定（令和9年4月）までに入所支援部との統合を含めた事業再編を行うことが承認された。次年度は事業再編に向けた取り組みを関係機関や利用者・保護者の方の理解を得ながら丁寧に進めていきたい。

施設整備については、下記の通り二つの事業に着手した。

一つ目は、旧女子グループホーム（令和5年度末事業廃止）の1階部分にある農産物直売所を残しながら、利用者、職員が共用できる本格的な運動施設（フィットネスクラブ）に改修を行う計画を推進した。2月下旬に入札会を行い施工業者を決定し、3月下旬に着工することができた。予定通りに工事が進めば、次年度6月下旬には完成する予定である。利用者、職員共に平均年齢が上昇していく中、体力の維持・向上が図れる場を新たに設けることにより、活力ある施設・職場作りを目指すと共に、無料利用できる運動施設があることを福利厚生が目玉として積極的にPRし、人材の確保にも繋げていきたい。

二つ目は、大規模広域災害等に起因する停電発生時において、照明や冷暖房、給水ポンプ等の施設内設備を稼働させることができ、施設入所者及び福祉避難所利用者の生命と安全を守るために不可欠な非常用自家発電設備を導入するため、令和6年度社会福祉施設等施設整備費補助金（補正予算分）の申請を行った。国、京都府との協議を経て、3月25日に正式に交付決定を受けることができた。繰り越し手続きにより、令和7年度中の事業完了が義務付けられているため、次年度は年度内に円滑に事業が完了できるように必要な手続きを進めていきたい。

利用者の健康面では、5月のゴールデンウィーク明けに入所支援部において9名の利用者の新型コロナウイルスへの感染が確認されたが、全員軽症であり、後遺症もなく早期に回復することができた。5類移行後も新型コロナウイルスは引き続き存在しており、高齢者や基礎疾患のある方にとっては依然重症化する恐れがあることから、今後も新型コロナウイルスの動向を注視し、利用者の健康と安全を守れるよう、感染状況等に応じて適切に対応をしていきたい。

## Ⅱ. るりけい寮入所支援部

以下、各項目に沿って詳細な報告を行う。

### ① 入所部旧棟(男子34名、女子21名)

旧棟利用者の年齢構成は、男子平均年齢46.8歳、女子平均年齢46.7歳となっており、全体の平均年齢は、46.7歳である。（令和7年3月31日現在）

年度当初、グループホームの閉鎖に伴い、長期に渡り利用されていた男子利用者4名及び女子利用者2名が入所された。また、女子利用者1名が、他施設のグループホームに移動されるまでの間、ショートステイされていたが、4月中旬に移動された。

男子利用者においては、7月14日に虚血性心疾患のため若くして突然亡くなられる（享年55歳）という事態があった。状況的には、適切な対応がとれていたと思われたが、事後の考察で、数点の反省課題が確認された。よって、今後の緊急事態等に活かしていればと考える。また、冬の帰宅実習後、情緒不安定で落ち着きが無くなり、食事が摂れず、夜も寝ようとされない利用者があった。次第に、学園では対応困難となってきたため、ご家族と相談の上、急遽帰宅されることとなったが、家庭でも対応困難となり、翌日黄檗病院に入院された。なお、入院は短期間で済み、退院後は学園にて元気に過ごされている。一方、以前から拘りによる不適切行為が多く確認され、1月頃からさらに行為がエスカレ

ートしてきた（非常ベルを押す、他者の部屋のエアコンや電灯を消してまわる等）利用者について、苦情も多くなってきたため、急遽第二北山病院へ入院となったが、現在も引き続き入院中である。

女子利用者では、認知面の低下が顕著になってこられた利用者に対し、7月から2名1担当の手厚い形をとったが、夜間覚醒や徘徊等の行動が見られてきたため、認知症の確定診断を受ける目的で、3月に入り北山病院に入院されたが、現在も入院中である。

無断外出された利用者は、年間を通して男子3名、女子2名であった。例年無断外出の目立つ女子利用者に関しては、今年度は4回あり、その内2回については、大規模な捜索を必要としたが、大事に至る事は無かった。

健康面に関しては、急性虫垂炎・汎発性腹膜炎で入院手術を受けられた利用者がおられたが、現在は元気にされている。また、5月に8名の方が新型コロナウイルスに感染されたが、いずれも軽症であった。なお、インフルエンザやノロウイルス等の感染症は流行せず、行事や外出等平常通りに取り組むことができた。

今年度、グループホームより入所された利用者として、元から入所されている男子利用者や女子利用者の関係で、旧棟全体がざわつくことが多く見られた。したがって、次年度は、改善策を講じる予定である。

## ②入所部新棟（男子13名、女子9名）

新棟利用者の年齢構成は、男子平均年齢63.4歳、女子平均年齢66.4歳となっており、全体の平均年齢は64.6歳である。また年齢幅は、男子利用者が45～87歳、女子利用者が54～79歳となっている。（令和7年3月31日現在）

今年度、女子利用者1名が、視力や認知面の低下が顕著に認められるとともに、医療的ケアが多くなってきたため、介護保険施設への移動が決まり退所となられた。また、70歳を過ぎたあたりから、てんかん発作を発症された男子利用者がおられ、今年度については、てんかん重積発作や急性穿孔性虫垂炎及び左総腸骨動脈閉鎖症の治療のため、京都中部総合医療センターに3回入院された。現在も、てんかん発作や高血圧症にて投薬調整中である。さらに、60歳を過ぎた頃から、認知面の低下が著しいダウン症の男子利用者がおられ、今後のことも考えて、北山病院に認知症の確定診断をお願いした。その結果、約一ヶ月の入院を経て、アルツハイマー型認知症と確定した。現在、学園内には、10名程度のダウン症の利用者が在住されており、今後高齢になられるにつれ、早期にアルツハイマー型認知症の症状が現れてくることが懸念されるため、早期の診断と適切な対応が求められる。

なお新棟には、87歳の方を最高齢に、80歳前の利用者も多いため、今後とも日頃から利用者の状態をよく観察し、各関係機関とも連携をとりながら支援していくことが大切であると考えている。

## I. 作業支援

今年度も8班体制で作業に取り組んだ。

『ステップル作業』は、多くの利用者に取り組める主要な作業として実施されてきたが、ここ数年在庫が多くなってきたため、今年度は生産調整を余儀なくされた。その代わりに、創作やネットコンテンツを活用した体操など、新たな取り組みを行った。そうした中、年度末にかけて在庫調整も進んできたため、来年度については、基本的に雨天時の午前中にはステップル作業を行い、午後からは余暇的な活動を実施することで、利用者の作業意欲

と社会参加を大切にしながら、支援を行っていきたいと考えている。

『昆虫飼育用品の下請け商品(枯葉)作業』は、主に当法人敷地内の葉を集めて選別し、屋内活動班が袋詰めを行い、通所部がシール止め、包装、納品を担当した。昨年度から2社と取引があり(1袋:1社は6~7g入り、もう1社は30g入り)、年間を通じて安定して取り組むことができた。

『農耕作業』は、利用者が全員で行う作業(水やり、草引き、収穫、堆肥撒き等)と、各利用者の希望に基づき、個人畑を管理してもらった。ただ、近年夏場の高温とともに、利用者の年齢も高くなってきたため、多くの畑の管理が難しくなっている。よって、今後の農耕作業については、規模と対象作物の再考が必要になってくるものと思われる。

『椎茸作業』は、原木2,500本(冬菌用1,500本、夏菌用1,000本)を今年度も島根県と大分県の業者より購入した。椎茸作業については、主に椎茸班が中心となって、日中活動班の運搬作業をも支えているわけであるが、年々運搬作業に適した原木の確保が困難になっているのが現状である。今後とも、原木販売業者に無理を言って、運搬作業が可能な範囲の原木を集めていただく必要がある。

『ホダ木運び作業』は、日中活動A~C班を中心に取り組んだ。運搬するホダ木については、比較的細いものを業者に準備していただいているが、利用者の高齢化とともにグループによって運搬する場所(栗園の坂道、平地)を選別する必要性が増えてきた。とは言え、個人にあった運搬作業は、体力維持や健康増進には欠かせないものであり、好天時に屋外で作業に取り組むことは、精神面にもいい影響があるため、今後も続けていきたい。

その他、体力維持活動(体操、散歩、風船うちわバレー等)や創作活動、ネットコンテンツを利用した活動、音楽等にも各班創意工夫して取り組み、余暇的な部分の充実も図るよう努めた。

農耕班	8名	屋内活動班	10名	椎茸班	12名	室内班	11名
日中活動A班	9名	日中活動B班	8名	日中活動C班	8名	日中活動D班	5名

## II. 生活支援

今年度、6名の利用者が、グループホームから入所部に移動され、新しい環境で生活を始められた。入所後、新しい場所で生活する上で、多くの利用者や支援員との関わりが増えるため、今までの生活習慣の確認を行い、暮らしやすい環境づくりに努めた。その結果、大きな問題もなく、スムーズに馴染まれることができていた。

近年、利用者の高齢化が進んできたため、日々時間をかけて健康管理(検温・血圧測定・皮膚疾患の確認・喉詰め防止対策等)を行うとともに、医務との連携を図って、医療機関への情報提供にも務めてきた。一方、年齢の若い利用者も居られるため、身辺自立に向けて繰り返し支援を行い、日常において定着できるように取り組んできた。

生活支援の時間として、部屋活動(水曜日の午後、部屋担当等と取り組みをする時間)を月2回設け、部屋掃除、身辺処理(爪切り・耳垢掃除等)、衣類整理等の支援を継続的に行ってきた。その結果、各取り組みを同じ方法で繰り返し行うことにより、自主的に出来ることが多くなってきている。また、個人に応じてリラックスできる時間もつくり、部屋担当との信頼関係が深まるように努めた。さらに、作業班での取り組みの中にも、生活支援の時間を設けて、歯磨きや掃除、入浴等の支援を行った。なお、午後に行う作業班での歯磨き支援(口腔衛生の保持・歯の動揺の確認・義歯の洗浄・歯茎のマッサージ等)については、個々の状況に応じて医務と連携を図り、歯科受診も行った。

入浴支援では、安全にゆっくり入れることを意識した上で、利用者の皮膚疾患や怪我等、

身体の異常を発見できるように努めた。そして、異常が認められた場合には、その都度医務に報告し、通院や処置など早期治療に繋がるように心掛けてきた。

これからも、利用者一人一人の変化を随時把握し、支援員間で情報を共有しながら、健康で楽しい生活が送れるように支援していきたい。

### Ⅲ. 余暇活動

#### 【余暇活動】

今年度の余暇活動も事業計画に基づき、作業のある土曜日の午後に合計8回実施することができた。なお、5月については、学園内に新型コロナウイルスの感染者が発生したため、実施することができなかった。

余暇活動を楽しみにしておられる利用者も多く、中でも散歩やカラオケは、毎回人気の高い取り組みであった。散歩については、安全面や個々の体力に配慮し、より細かなグループ分けを行うことで個々のペースに合わせることができ、概ね問題なく取り組めた。また、カラオケについては、高齢者の多い新棟の利用者が、階段のある旧棟和室でのカラオケに参加しにくいという実情があったが、新棟のテレビの買い替えに伴い、YouTubeを利用してカラオケができるようになった。これにより、新棟の利用者もカラオケに参加しやすくなり、両棟に分かれて行うことで、一人がより多く歌い楽しめるようになった。さらに、YouTubeでのカラオケやダンス、ストレッチに加え、新しく“間違い探し”の取り組みも実施し、いずれも好評であった。今後も動画配信を活用することで、様々な楽しい取り組みが展開できるのではないかとと思われる。

余暇活動には興味関心が薄く、参加されない利用者も毎回一定数おられるため、今後もより多くの利用者が興味を持ち、楽しい時間を過ごしてもらえる取り組みを模索し、提供していけるように努めていきたい。

#### 【平日余暇】

平日余暇に関しては、主に入浴後や木曜外出日の午後の自由時間を利用して、48回実施することができた。内容では、カラオケの実施回数が最も多く、他にはパズルやDVD鑑賞、夏祭り前にはポスター作りや盆踊りと太鼓の練習も僅かではあったが実施できた。ただ、平日ということもあり、支援員体制等の問題から、取り組み内容もカラオケに偏ったが、毎回楽しみにしておられる利用者も多かった。次年度以降も、出来るだけ柔軟に、利用者のニーズに対応していければと思う。

#### 【ボランティア交流】

今年度については、民間ボランティアの催しを、3回実施することができた。いずれも音楽系の催しではあったが、童謡や歌謡曲を中心に一緒に歌ったり、綺麗な歌声に聴き入ったり、色々な楽器の音を身近に聴いたり、それぞれの内容も違い大いに盛り上がり楽しめていた。今後も外部の方と直接ふれあい、普段と違う楽しいひと時を過ごしてもらるように継続していきたい。

- ① 6月29日 ぼぼたん (歌)
- ② 11月16日 チャーミーママ (コーラス)
- ③ 2月15日 ふれあい楽団Lucie (演奏)

運動系の取り組み	風船バレー 散歩 ポケネット パターボール 輪投げ ボウリング 卓球 盆踊り ボール遊び バドミントン ダンス ストレッチ
文化系の取り組み	パズル カードゲーム カラオケ メイク・ネイル教室 創作 音楽 紙芝居 DVD鑑賞 行事のポスター作り

#### IV. 利用者の意見交流（トマト会）

トマト会は、利用者の意見、要望、苦情等を出し合って協議すると共に、情報提供と意見交換の場として、2ヵ月に1回（年間6回）の開催を基本としている。

今年度は、年間行事計画に基づき、夏祭り、一泊旅行（4年ぶりに実施）、日帰り旅行、クリスマス会、外出、レクリエーション等、全ての行事を予定通りに実施することができた。もともと、感染症への配慮は必要であったが、全ての行事を実施できたことで、利用者からも積極的な意見や希望、感想を聞くことができた。ただ、旅行の希望については、近年旅行会社の都合により、行き先を早く決めておかななくてはならない流れになっているため、利用者の希望を十分に汲み取ることが難しい状況になっている。

トマト会は、利用者が学園生活を送る上で、生活の質の向上を図るべく、利用者からの意見を聞く場である。今後も、利用者にとって必要な話題を提供すると共に、情報の共有や利用者同士の意見交換の場として、各個人の思いや考えが伝えられることを大切にして、引き続き開催していきたい。

開催日	場 所	参加人数	議 題
6月 1日	食 堂	58名参加	司会希望、年間行事の説明 夏祭り（飲食等希望）、その他
7月 3日	新棟ロビー	33名参加	夏祭りの説明 旅行の希望、その他
9月11日	新棟ロビー	34名参加	夏祭りの感想 その他
11月 2日	食 堂	50名参加	クリスマス会の説明 その他
1月22日	新棟ロビー	36名参加	クリスマス会の感想 その他
3月15日	食 堂	53名参加	1年を振り返って 給食について、その他

今年度は、1件の検討事項があった。支援員会議にて検討し、その結果を、利用者に向けて掲示した。

開催回	検討内容	返答内容
第 1 回	個別外出は行けるのか？	支援員会議にて検討した結果、支援員の体制上、個別外出を実施するのは難しいため、中止とする。⇒掲示する。

#### V. 社会学習支援

今年度においても、各部屋班を基本に月1回（4月と8月を除く）、年間10回の外出機会を計画し実施することができた。しかし、5月については新型コロナウイルスの感染者が発生したため、昼食を済ませてからの外出となった。

交通手段や行き先などを話し合いで決め、出来るだけ利用者の希望に添えるように計画してきた。行き先は、亀岡市内が多かったが園部町内の時もあり、各班で昼食場所などを決めて、楽しい時間を過ごすことができていた。

状況としては、体調不良や本人の拒否で外出が中止になったり、急遽早帰りになったりする利用者もおられたため、その都度対応してきた。また、利用者の高齢化による体力面

の低下や精神面での不調等、外出先において各自に応じた支援が必要な利用者が増えてきており、安全面確保のためにも様々な配慮が必要であった。

外出は、学園生活での大きな楽しみの一つとなっているため、今後も安全面に配慮しながら、臨機応変な対応が必要になってくると思われる。

## VI. 地域交流

今年度も、①ボランティア交流、②西本梅地区（あかまつの丘）との交流、③教育機関との交流、以上の3部門に分かれて取り組みを行った。

### ①ボランティア交流について

令和5年度については、2回企画をしたが、新型コロナウイルス感染症の関係で、慎重を期して一度も開催されることが無かった。しかし、今年度は、早期の日程調整と余暇係との連携を行うことで、3回の開催ができた。（演目は、余暇活動に記入）

もっとも、音楽関係のボランティア交流が多かったため、利用者へ配布する写真が、似たようなものになってしまったのは否めない。次年度は、交流終了後に演者さんと共に、全体写真が撮影できればと考えている。

なお、夏祭りについても、ボランティア（音楽関係）をお願いしていたが、台風の影響で出演が中止となり残念であった。

### ②西本梅地区（あかまつの丘）との交流について

今年度も、5月～10月にかけて6回、作業班にて創作した季節ごとの創作物の展示を行った。とりわけ7月と12月には、日中活動A班及びC班が、西本梅地域活性化センターへ出向き創作展示を行った。なお、今年度は作品を保管し、7年度の展示時に間に合わなかった場合に備えることとした。

椎茸等の販売に関しては、今年度も通所部を通しての販売とした。売れ行きは良く、好評であるとのことであった。また、年度当初の話し合いの段階では、センターで開催されるマルシェ等での販売も希望されていたが、土日が主となるため、学園での人員配置も難しく実施には至らなかった。

### ③教育機関との交流について

10月8日に、農芸高校との交流において、多肉植物の鉢への植え替えを行った。多肉植物をピンセットで掴んで土に埋める作業があり、やや利用者には難しい場面があったが、生徒や先生並びに支援員でフォローしあいながら完成することができた。およそ一時間程度の交流ではあったが、利用者にとって有意義なものであったため、これからも継続できれば良いと考えている。

〈全体として〉

上記、それぞれの取り組みにおいて、解消すべき課題もあるが、特に大きな問題も無く実施することができた。なお、西本梅地区（あかまつの丘）との交流については、今後西本梅地域活性化センターの事業継続が不透明とのことであったが、7・8年度の事業については継続の方向ということである。

少子高齢化社会の進行により、幼稚園や小学校の閉鎖統合に続いて、今後その他の施設等の閉鎖も予想されるため、地域交流係としても、新たな交流先の開拓が必要であると思われる。

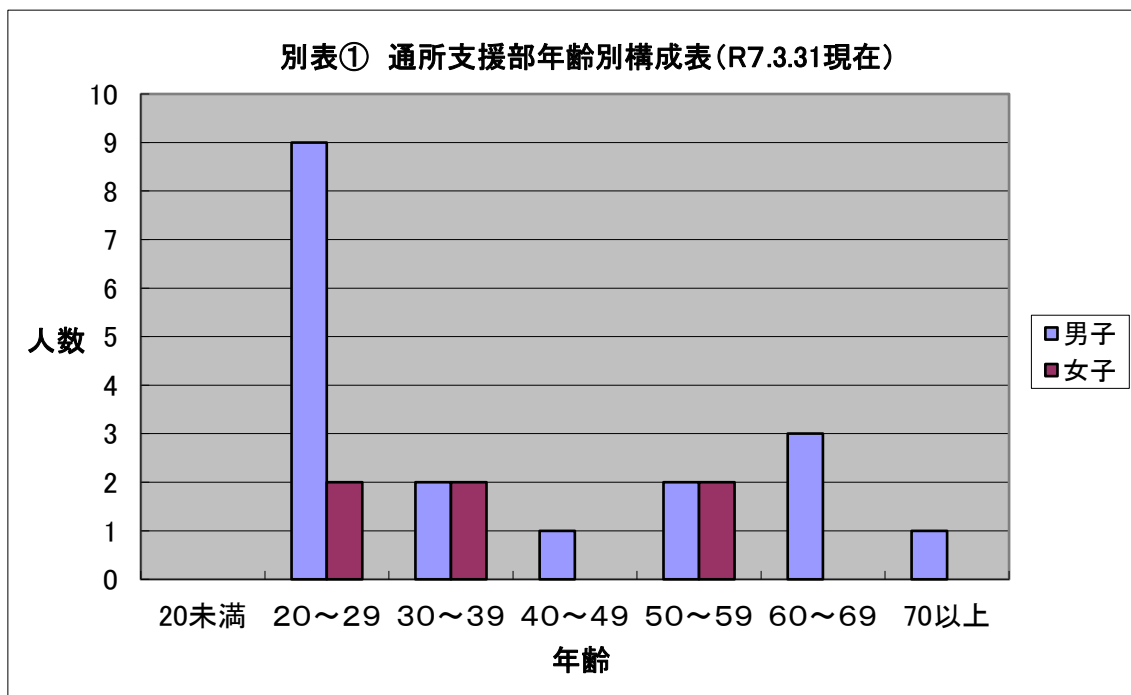
令和6年度 入所部年間行事

実 施 月 日	行 事
4月27日(土)～5月6日(月)	帰宅実習
5月21日(火)	利用者ボウリング大会① (利用者21名参加) ～アルプラザボウルにて～
5月28日(火)	利用者ボウリング大会② (利用者21名参加) ～アルプラザボウルにて～
6月～7月	各作業班レクリエーション
8月11日(日)～8月25日(日)	帰宅実習
8月31日(土)	夏祭り 午後に寮内にて実施 ～ゲーム、飲食、カラオケ等～
9月～11月	各作業班レクリエーション
10月1日(火)～2日(水)	旧棟一泊旅行 ～淡路島方面へ～ (利用者19名参加) イングランドの丘、グランドメキュール淡路島
10月22日(火)～23日(水)	新棟一泊旅行 ～姫路方面へ～ (利用者15名参加) 塩田温泉、太陽公園
10月29日(火)	日帰り旅行① ～京都市内方面へ～ (利用者12名参加) ホテルモントレ京都、嵐山(嵐電貸切)
11月12日(火)	日帰り旅行② ～神戸方面へ～ (利用者14名参加) フルーツフラワーパーク
11月26日(火)	日帰り旅行③ ～京都市内方面へ～ (利用者15名参加) 京都センチュリーホテル
12月13日(金)	クリスマス会 (食堂及び通所棟2Fにて、昼行う) 豪華な昼食、カラオケ、ケーキ等
12月28日(土)～1月5日(日)	帰宅実習
1月3日(水)	初詣で ～御霊八所大明神～ (利用者28名参加)
1月22日(水)	旅行不参加者食事会 (利用者3名参加) ～学園にて(れいん房より)～
1月～3月	各作業班レクリエーション

### Ⅲ. りりけい寮通所支援部

#### 1. 利用者の状況

現在、24名が利用しており、男子利用者（18名）の平均年齢は39.1歳、女子利用者（6名）の平均年齢は38.1歳、全体では38.9歳であり、昨年度と比較し大きな変化は見られなかった。（年齢別構成については別表①参照）



今年度も保護者の高齢化や家庭内での諸事情により、定期的にショートステイの利用を希望する利用者が複数名あった。今後もショートステイ利用のニーズは高まっていくと思われるため、入所支援部との連携を密にし、円滑に利用していただけるように努めていきたい。

利用者の入退所については、下記の通り1名の入所者、1名の退所者があった。

《入所者》

- ・令和6年9月26日 27歳男性 当センターと他事業所の併行利用

《退所者》

- ・令和6年4月15日 50歳女性 グループホーム（別法人）に移動の為

年度当初に障害福祉サービス等の報酬改定が行われ、生活介護の基本報酬がこれまでの営業時間に基づく報酬設定から実際のサービス提供時間に応じた報酬設定に改定された。この改定の影響により大幅な減収となり、事業の存続が困難な財政状況に陥っている。こういった状況の中、3月に開催された理事会において次回の報酬改定（令和9年4月）までに入所支援部との統合を含めた事業再編を行うことが承認された。次年度は事業再編に向けた取り組みを関係機関や利用者・保護者の方々の理解を得ながら丁寧に進めていきたい。

#### 2. 作業支援

作業については、屋内での下請け作業（新聞粗品、ジョイントクリップ、木の葉作業）とステッフル、屋外作業（畑、ハウス）を並行して取り組んだ。

新聞粗品に関する作業については、受注量は年々減少しているが順調に取り組めた。ジョ

イントクリップは以前に比べると受注量は減少しているが、年間を通して組み立やパック詰め作業等、多くの利用者が関わることができた。木の葉作業は、2業者との取り引きを継続していく中で、確保した枯れ葉を有効活用できるよう取り組んだ。

前年度から取り組んでいるステップルの箱詰作業は、重度の利用者を含めて多くの利用者が関り取り組むことができた。これらの屋内作業には、各々の強みを活かして、全ての利用者が関わることができており大切な作業となっている。

畑作業は黒豆（枝豆）栽培のみ行った。当初は順調に成長していたが、猛暑の影響か実のなり方が悪く、出荷できる状態まで育てることができなかった。次年度も栽培する予定だが、何らかの対策を考える必要がある。ハウスについては、夏季にトマト、冬季にレタス栽培を行った。トマトは収穫できたものの、個数や大きさにばらつきがあり安定した販売には至らなかった。レタスは、黒豆同様に猛暑の影響か、上手く成長せず品質の良い物ができなかった。次年度も継続して栽培する予定だが、設備の老朽化や夏季の気温上昇により作業困難となることが課題であり、規模縮小等も検討していく必要がある。

作業支援の一環として、できるだけ散歩の機会を設けた。毎回多数の利用者が参加されており、それぞれのペースに応じて農道を歩いたり、公民館の広場でボール等を使って体を動かす等自然豊かな環境でリフレッシュすることができた。前年度は参加が少なかった利用者も徐々に参加回数が増えている。また、余暇的な取り組みとして、今年度も創作活動を取り入れ、完成した作品は普段の作業場所に飾る等して創作意欲に繋げていった。その他、カラオケ・DVD鑑賞・ドライブ等の楽しみとなる取り組みも状況により随時取り入れた。

行事に関しては、ほぼ当初の予定通りに実施することができ、3回のレクリエーション、日帰り旅行、クリスマス会等、限られた時間の中でも多くの利用者が楽しんで参加することができた。

### 3. 生活支援

前年度に引き続き、通所時の手指消毒や検温、健康観察を最優先に行い、利用者の健康状態の把握に努めた。

歯磨き支援に関しては、昼食後及び午後の作業時間帯を利用して取り組んだ。自主的に取り組む利用者は多いが、技術的には不十分な面があり介助磨きの支援を適時行った。必要な利用者には髭剃りや爪切り等の支援も行った。

また、今年度は一部利用者の入浴支援を再開することができた。7月以降、男女計4名の利用者を対象に、週1度を目途に入所施設の浴室を利用して取り組んだ。作業や他の取り組み等の兼ね合いもあるが、可能な範囲で今後も継続していきたい。その他、身辺整容等の必要な利用者には個別に支援を実施した。

### 4. 利用者の意見交流（ディズニー会）

利用者の意見交換の場と行事等の説明の機会として、通所支援部の利用者に参加してもらい話し合いの場を持った。利用者からの意見や日常生活における要望等は少なかったものの、行事に対する質問は多く出されていた。主に年間3回のレクリエーションの説明の場として3回開催することができた。

今後はより多くの意見や要望が活発に出される会となるように、試行錯誤しながら取り組みを継続していきたい。

## 5. 年間行事

行事については、別表のとおりである。

### 令和6年度 通所支援部年間行事

実施月日	行	事
6月14日(金)	レクリエーション①A	(箕面市 翔龍坊) (利用者10名参加)
6月20日(木)	レクリエーション①B	(箕面市 翔龍坊) (利用者11名参加)
10月23日(水)	レクリエーション②A	(京都市 かごの屋) (利用者12名参加)
10月29日(火)	レクリエーション②B	(京都市 かごの屋) (利用者9名参加)
11月19日(火)	日帰り旅行	(丹波篠山市 ささやま玉水) (利用者16名参加)
2月12日(火)	レクリエーション③A	(京都市 ステーキガスト) (利用者12名参加)
2月27日(火)	レクリエーション③B	(京都市 ステーキガスト) (利用者11名参加)

## IV. 避難訓練実施状況

実施年月日	実施内容等
5月22日(水)	BCP 総合訓練 (障害者支援施設るりけい寮・旧棟)
7月17日(水)	避難訓練・消火訓練 (通所支援センターるりけい)
7月24日(水)	夜間想定訓練 (障害者支援施設るりけい寮・新棟)
9月18日(水)	休日昼間想定訓練 (障害者支援施設るりけい寮・旧棟)
10月16日(水)	避難訓練・消火訓練 (通所支援センターるりけい)
11月20日(水)	休日昼間想定訓練 (障害者支援施設るりけい寮・新棟)
3月18日(水)	夜間想定訓練 (障害者支援施設るりけい寮・旧棟)

## V. 職員研修

(内部研修)

- 4月17日 「BCP研修」  
～BCP(災害編)についての概要説明～  
講師 るりけい寮 寮長 奥村 研也
- 5月22日 「救命処置の手順」  
「一次救命処置・誤嚥、窒息時の対応について」  
講師 るりけい寮 医務主任 藤田 ゆかり
- 12月18日 「感染症対策の基礎知識について」  
「吐物処理の方法について」\*実習  
講師 京都府南丹保健所 保健師 徳田未央氏  
河村佳宏氏
- 2月14日 「虐待防止研修」  
～アンガーマネジメントについて～  
講師 るりけい寮 寮長 奥村 研也

(外部研修)

近畿知的障害者施設協会、京都府社会福祉協議会人材・研修センター等開催の研修会に、各職員が分散して参加した。

## VI. 保健衛生に関する報告（入所支援部・通所支援センターるりけい）

### 1. 年間通院及び入院状況

科 目	通 院						入 院	
	男		女		計		男	女
	延 数	実人数	延 数	実人数	延 数	実人数		
精神神経科	36	29	16	12	52	41	3	2
内 科	88	19	79	22	167	41	2	
外 科	11	4	6	2	17	6	2	
整形外科	2	2	21	4	23	6		2
耳 鼻 科	21	12	17	10	38	22		
眼 科	55	6	59	8	114	14		
皮 膚 科	92	36	55	22	147	58		
婦 人 科			28	15	28	15		
歯 科	86	18	88	20	174	38		1
泌尿器科	8	2	0	0	8	2		
合 計	399	128	369	115	768	243	12	

### 2. 月別受診件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	37	29	30	36	29	34	34	31	33	34	33	39	399
女	19	48	40	27	29	29	34	35	34	27	19	28	369
計	56	77	70	63	58	63	68	66	67	61	52	67	768

### 3. 入院状況詳細 《入所支援部》

脳神経内科・令和	6年	4月11日～	4月19日	男性①（70歳）	《京都中部総合医療センター》
令和	6年	6月24日～	7月19日	男性②（70歳）	《京都中部総合医療センター》
歯 科…令和	6年	12月9日～	12月13日	女性（68歳）	《京都中部総合医療センター》
精 神 科…令和	6年	5月27日～	8月10日	女性（56歳）	《北山病院》
令和	6年	12月6日～	令和7年1月8日	男性（62歳）	《北山病院》
令和	7年	1月15日～	2月7日	男性（60歳）	《宇治おうばく病院》
令和	7年	2月25日～	入院中	男性（58歳）	《第二北山病院》
令和	7年	3月3日～	入院中	女性（46歳）	《北山病院》
整形外科…令和	6年	3月4日～	4月3日	女性（52歳）	《園部病院》
令和	6年	1月22日～	4月16日	女性（46歳）	《京都第一赤十字病院》
外 科…令和	6年	10月15日～	11月26日	男性（71歳）	《京都中部総合医療センター》
令和	7年	1月23日～	2月10日	男性（49歳）	《京都中部総合医療センター》

#### 4. 退所（契約解除）状況

##### ◎入所支援部退所（契約解除）報告

令和 6年 7月14日 男性（55歳） 虚血性心疾患による死亡  
 令和 6年 8月10日 女性（56歳） グループホーム(ソーシャルインクルー)入居の為  
 令和 7年 1月27日 女性（68歳） 介護老人保健施設(こもれび)へ移動の為

##### ◎通所支援センター退所（契約解除）報告

令和 6年 4月15日 女性（50歳） グループホーム(あしたーる「あかり」)入居の為

#### 5. 投薬状況（内服薬のみ）

科 目	人 数
精神神経科	41
内 科	30
外 科	1
整形外科	2
耳 鼻 科	16
眼 科	0
皮 膚 科	10
婦 人 科	2
泌尿器・肛門科	1
合 計	103

#### 6. 処置状況

科 目	人 数
内 科	6
外 科	9
整形外科	19
耳 鼻 科	10
眼 科	16
皮 膚 科	64
婦 人 科	0
泌尿器・肛門科	3
合 計	127

##### 《処置内容》

内 科 …… 摘便、浣腸  
 外 科 …… 消毒、ガーゼ交換  
 整形外科 …… マッサージ、湿布  
 耳 鼻 科 …… 点耳、点鼻、軟膏塗布  
 眼 科 …… 点眼、軟膏塗布  
 皮 膚 科 …… 軟膏、クリーム塗布等  
 肛 門 科 …… 坐薬挿入

※2科目以上の処方を受けている者あり。

#### 7. 予防接種

	実施年月日（利用者）	実施年月日（職員）
新型コロナウイルスワクチン定期接種	R6 12/11・20	
インフルエンザワクチン接種	R6 11/8・15・22・29	R6 11/8・15・22・29・12/11

#### 8. 検診・検査実施状況（通所支援センターるりけいを含む）

検 診 ・ 検 査 等	実施年月日（利用者）	実施年月日（職員）
内科検診（第1回）	R6 4/26・5/17・6/28・7/26・8/30	
（第2回）	R6 9/20・10/25・R7 1/31・2/21・3/21	
血液・心電図検査	R6 4/9	
胸部直接撮影	R6 4/9	R6 7/24
尿 検 査（第1回）	R6 7/22～7/24	R6 7/24
（第2回）	R7 2/25～2/26	R7 2/26
歯 科 検 診	R6 11/6	
前立腺癌検診	R6 4/9	
子宮・乳癌検診(集団検診)	R6 5/14・6/18・7/9 (R6 4/24)	

大腸癌検診(検便)		R6 7/24・R7 2/26
視力・聴力検査、身長・体重測定		R6 7/24・R7 2/26(深夜勤務者のみ)
Dr. 廣野健康管理指導		R6 8/30
特定保健指導		実施者なし
職員健康診断(第1回)		R6 7/24(心電図を含む)
職員健康診断(第2回)		R7 2/26(深夜勤務者は心電図を含む)
ストレスチェック		R6 7/24

## 9. 総合評価

今年度の感染症については、インフルエンザ罹患者が職員1名(A型)のみで、ノロウイルスの罹患者は認められなかった。しかし、新型コロナウイルス感染症に関しては、入所では5月に19名の感染者が認められた。〔利用者9名、職員10名〕 通所でも3名の感染者が認められた。〔5月に職員1名、6月・9月に利用者各1名〕 全員軽症であり、後遺症もなく回復することができた。全国的に新型コロナウイルス感染症のクラスター発生件数は多かったようであったが、るりけい寮としては19名だけで収束できており、日常業務の大きな変更まではいかなかったことは幸いであった。

今年度の退所利用者については4名あり、内2名(通所1名を含む)は他のグループホームへ入所され、1名は介護老人保健施設へ入所された。残り1名は虚血性心疾患による死亡であった。このケースにより、改めてバイタルサインの確認及び情報の共有等の重要性を考えさせられ、体調不良時の際の“全身状態観察チェック表”を作成し、今後は複数人での状況確認、検討、判断を実施することとした。

今年度よりBCPや感染対策指針に沿った研修や訓練を2回実施することとなり、1回は外部からの派遣を依頼して研修を行ったが、一般的な地域の集団に対して行うような研修であったために、来年度については、もっと学園内の環境や体制に沿った研修を考えていく方が良いように感じられた。

### 研修及び配布資料内容

- 令和 6年 5月17日 食中毒  
5月22日 救命処置の手順  
一次救命処置・誤嚥、窒息時の対応 実施訓練
- 6月 1日 WPW症候群  
6月13日 熱中症の応急処置  
6月19日 BCP及び感染対策指針に基づく研修・訓練(1回目)  
感染予防の基本 手洗いチェッカー使用
- 7月10日 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)  
8月 8日 新型コロナ変異株  
9月11日 担架搬送時のポイント  
10月 9日 バイタルサインの基準値  
10月30日 僧帽弁逸脱症 せん妄について  
11月21日 ノロウイルス対策 消毒液の作り方

- 1 2月18日 BCP及び感染対策指針に基づく研修・訓練(2回目)  
南丹保健所保健師による講義「感染症対策基礎知識」  
吐物処理実習
- 1 2月28日 発達検査と知能検査の違い
- 令和 7年 1月 5日 I g A腎症とは
- 1月16日 血圧測定時の注意点
- 3月19日 アストロウイルス感染症

## VII. 給食栄養指導報告

加齢に伴い、嚥下や噛む事が困難な利用者が増え、調理方法（食材の硬さ）や食材の形（切り方）を十分に注意し、調理した。

献立内容は、嗜好調査の意見や希望も十分に取り入れ、食事を楽しむ事を大切に、バランスの良い食事を提供できるように配慮した。季節を感じて頂けるよう、旬の食材をできるだけ取り入れ、施設で栽培している農作物も多く取り入れた。体調不良時の食事について個別に対応するなどの改善・向上をはかることができた。食事の際、利用者の様子が把握できるよう、食堂席は随時見直し、席替えをした。又、配膳の間違えを無くすため、利用者の食事席の名前シールを見やすく剥がれにくいものに変更した。

### 1. 栄養管理

	エネルギー kcal	タンパク質 g	カルシウム mg	脂 質 g	鉄 mg	ビタミンC mg
年間平均栄養摂取量	2,194	87.4	730	63.6	11.6	103
施設栄養所要量	2,200	75.0	718	61.0	8.3	100

- ・上記の表の通り、栄養基準量を充足し、嗜好に合った献立になるよう配慮した。作業内容や年齢層の違いはあるが、体重減少の利用者もあるため、摂取カロリーは少し高めに設定した。そのため、たんぱく質を始めとする他の栄養素も所要量より高くなった。
- ・給食会議を施設職員・委託業者職員にて月1回行い、給食業務の改善と、委託業者との意見交換の場として役立てた。又、給食会議の記録を行った。
- ・残食調査は毎日行い記録し、今後の献立作成の参考にした。
- ・食前に検食を行い記録した。
- ・健康増進のため、施設で栽培した食材の使用、週2、3回の玄米食の提供、加工食品を出来る限り使わないよう体に優しい物を使用する事に努めた。
- ・体調不良で静養中の利用者には、粥食だけでなく体調に合った栄養を考えた献立を提供する事ができた。
- ・利用者の嗜好調査は年1回行った。
- ・栄養ケアマネジメントについては、ソフトを使用し、効率的に利用者の栄養管理を行えた。

### 2. 調理上の留意点

- ・歯のない人、咀嚼力のない人が多いので、配慮食の徹底を図った。
- ・適温給食になるように、調理・盛付・配膳時間を考え、トレー配膳及び保温庫の使用を委託業者に要請し、適温給食の向上を図った。麺類の汁や丼物の具は、配膳後にかけていくようにしている。
- ・他施設の調理師と調理方法等の情報交換を行うことで、魚の臭みや冷凍野菜の質の改善ができるようになった。
- ・疾病予防のため、味付けは「薄味」を心掛けた。

- ・食中毒予防として、十分な加熱と、生卵・生肉の使用は避けた。
- ・異物混入を減らすため、調理法によっては、手袋の種類を変更して使用したり、食材を容器や袋から取り出す際には、下処理の場所のみで行った。
- ・異物・害虫混入を減らすため、調理済みの食品については、蓋やラップを使用する事を徹底した。(異物混入が発生した際には委託業者より報告書を提出している。)

### 3. 衛生管理

- ・管理栄養士及び調理従事者の保菌検査、腸管出血性大腸菌の検便検査を毎月1回、健康診断を年1回実施した。
- ・床、ガスコンロは、毎日掃除している。
- ・食堂及び厨房内の毎月の害虫・害獣防除及び点検と薬剤散布による害虫・害獣駆除を年2回専門業者に依頼した。害虫の侵入を防ぐため、建物や厨房内の隙間等を塞ぎ、害虫の侵入を徹底して防いだ。
- ・飲料水の検査を毎日朝夕、残留塩素測定器を使用して行った。
- ・食品倉庫・冷凍庫・冷蔵庫等の掃除や、調理器具等の整理整頓に心掛けた。また、換気扇・排水槽についても適時掃除を行った。
- ・業者の納品時に、冷凍・冷蔵食品は全て表面温度を測定し、食材名・消費期限・生産地・納品数・温度等の記録を行い、食品の衛生管理、鮮度等に配慮した。又、ダンボールでの納品の食品はできる限りケースに移し変えての納品とした。
- ・業者等、外部から来られる方については、履物を交換してもらおうなどし、衛生管理に努めた。

### 4. 食事計画

- ・一汁一飯二菜以上とし、施設及び業者の栄養士の十分な打ち合わせにより、献立内容の抜本的な改善を図り、利用者の健康状態に気を配った。
- ・季節感を感じてもらえるように努力し、食事の楽しさを演出した。

### 5. 行事食

月	内 容	月	内 容
4		10	ハロウィン
5	端午の節句	11	文化の日
6	水無月	12	冬至、クリスマス会、大晦日
7	七夕	1	お正月、七草、小正月
8	お盆、夏祭り	2	節分、バレンタインデー
9	敬老の日、秋分の日	3	ひなまつり、ホワイトデー

- ・上記の表の通り、年間計画にそってほぼ実施することができた。
- ・毎月1回の誕生日会の献立も実施できた。

### 6. 備蓄食品

災害に備えての防災食(非常食)を3日分備蓄した。保存場所を2か所に分け備蓄している。防災食は利用者が食べやすいよう、8種類の味付の主食にしている。また、賞味期限・消費期限、防災食の種類、備蓄場所、必要な情報を明記し、緊急時対応マニュアルと共に、全職員が理解できるよう掲示した。(緊急対応マニュアルの書き換えを行った。)

コロナ用備蓄品

お弁当箱(大・小)、箸、フォーク、スプーン、使い捨てのトレイ、2ℓペットボトルのお茶(30ケース)、紙コップ等、使用后直ちに処分出来る物を備蓄した。

## 7. 特別食

(生活習慣病等)

内 容	人 数	
	入所支援部	通所支援部
塩分制限	4名	
糖尿病	5名	
脂質異常症 動脈硬化（循環器系）	14名	3名
貧 血	4名	
肝臓・消化器疾患	4名	
肥満・（肥満予防含む）	36名	8名
高齢又は歯のない人 狭窄による嚥下困難含む	9名	
補助食・高カロリー 飲料・鉄分調整等	0名	
とろみ食（水分のみ）	0名	

(配 慮 食)

内 容	人 数	
	入所支援部	通所支援部
細切れ	19名	3名
超細切れ	4名	0名
おかず半分	8名	0名

- ・貧血の利用者には、週に2回、レバーをつけている。
- ・加齢、病気による食事調整の必要な人、重複する人もあり、上記の表の通り特別食として提供した。また、性別・年齢・身長・体重・運動量等、個人差については主食で加減した。又、肥満を予防する際に、副食の量を半量にしたり、調理方法を変更したり個別の対応をしている。
- ・パン食の際、嚥下困難の利用者には、食べやすいよう、牛乳をつけたり、細かく切って提供した。
- ・週2回、朝食にパン食を提供しているが、パン食は喉詰めの確率が高いため、職員の出勤人数の多い日に設定を変更した。
- ・喉詰め予防のために、大スプーン・レンゲを付けない対応やご飯をお茶や汁物でほぐしておく等、個々に合わせた対応を行った。

## 8. 食事時間

朝食 8:00	昼食 12:00	間食 15:00	夕食 18:00
---------	----------	----------	----------

## 9. 平均喫食数

入所支援部

区分	朝 食	昼 食	夕 食
利用者	74	72	74
職員	5	20	5
合計	79	92	79

通所支援部

区分	昼 食
利用者	24
職員	7
合計	31

# 事業報告

八 木 寮

令和6年度の利用状況は、次の通りであった。(令和7年3月31日現在)

定員52名のところ50名でスタートした。年度途中で定員が52名から50名へと変更となる。男性2名退所、1名入所、女性は1名退所となる。なかなか定員充足に至らず定員マイナス2名(対前年度2名減)で年度末を迎えた。

(男子27名、女子21名)

## I. 概況

令和6年度の概況について、下記の1～5に沿って報告を行う。

### 1. 運営状況について

令和6年度の収支においては、年度末に1名の新規入所者があったが、年間を通して欠員を解消する事が出来なかったことに加え、3名の利用者の退所があり、収入面では当初予算で見込んだ事業収入を達成することができなかった。

支出においては、施設設備の老朽化に伴う修繕を行ったが、年間を通して経費削減に努めた施設運営を行った。

また、新規職員を4名採用し今後の施設運営を見越した人材確保を行った。

### 2. 帰宅実習状況

	GW		夏の帰宅		年末年始		平均	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
帰 宅	9	18	3	6	11	23	8	16
帰宅できない	41	82	47	94	36	77	41	84

8月はコロナウイルスの感染拡大により帰宅の中止が相次ぎ、3名のみの帰宅となる。年間を通じて1度も帰宅されない(できない)利用者が増えてきている。また、帰宅されても全期間ではなく、1泊又は2泊で帰寮される利用者が多くなってきている。

### 3. 苦情相談等の状況

0件

### 4. 職種別職員数

職 名 区 分	寮 長	支 看 援 護 員 職	事 務 職 員	栄 養 士	嘱 託 医 師	そ の 他	合 計
現 員	1	24	2	1			28
嘱 託 職 員		7			(1)		7 (1)

( ) 非常勤

社会福祉士3名 介護福祉士22名 精神保健福祉士2名 社会福祉主事5名  
知的障害者援助専門員2名 栄養士2名 看護師1名

### 5. 令和6年度社会福祉施設運営指導及び指導監査について

#### 運営指導及び指導監査実施 [京都府]

・運営指導で文書及び口頭による改善報告事項があった。個別支援計画記載内容と個人情報同意書に関する改善報告書を提出した。

## Ⅱ. 支援部

### 1. 利用者の状況

集団活動を中心とした支援と共に、個別支援計画に基づき、保護者と連携を取り、一人ひとりへの個別対応支援にも力を注いできた。ご利用者の重度化や高齢化、幅広い年齢層、特性の違い等があり、健康面及び精神面での配慮が今後より必要となっている。

【散歩】健康維持のため、年間を通して班ごとに取り組んだ。加齢に伴い、転倒リスクも高まっており、十分な体制が確保されないと全体での散歩は困難な面がある。

【健康体操・室内運動】各班、体力・健康維持のため取り組んできた。エアロバイクやルームランナー、ステッパー等の運動器具も活用し、室内の運動を充実させた。

又体重過多、運動不足、糖尿病等のご利用者数名において、朝の時間を使って約15分の運動を引き続き実施した。

【調理】各支援班は2～3か月の頻度で取り組むことができた。

【作業】主にステップルの室内作業の提供を行った。その他、自立課題ツールとして、キューブのマッチングやクレーン作業、ペグ及び造花のプットイン等、それぞれの特性に合った集中して取り組めるツールも提供した。また、畑で季節の野菜を作り、めえめえマーケットに出店して販売。案山子コンクールに出展する案山子制作も行った。

### 2. 生活支援

#### ①生活支援

毎食後の歯磨き支援、身嗜みチェック、入浴支援、日中活動等を中心に行った。歯磨きについては、口腔クリーニングとも連携を取って日々支援にあたり、虫歯・歯周病予防等に努めた。入浴支援については、月・水・金と隔日に行い（夏場は木・土にシャワー浴を実施）、疲労回復やリラックスいただくとともに、健康状態等の確認も併せて行った。その他、個人特性に応じ、身辺整容等の必要な利用者には、個別支援にあたった。

#### ②日中活動

令和6年度は普段どおりの生活に戻りながらも新型コロナウイルス感染症のリスクと共存する形での一年となった。

丹波支援学校学習会見学は行えなかったが、八木西小学校との交流会はひきつづき実施できた。八木町文化祭への作品展示も実施でき、ご利用者の見学等地域交流につながった。ご利用者が一番楽しみにされている旅行は、日帰り旅行から再開した。ご利用者半数が3グループに分かれ、6月に2グループ、10月に1グループが楽しまれた。1グループは、リフト付き小型観光バスに乗り、京都のホテルランチを堪能され、嵐山の売店で買い物を楽しまれた。1グループは神戸のどうぶつ王国で動物と触れ合い、ホテルの最上階で中華バイキングを堪能された。もう1グループは嚥下機能低下等により外食困難な方々のグループで、回転寿司のレーンをレンタルし、寮内の会議室を寿司店にデコレーションして回転寿司を楽しまれた。他半数のご利用者は「コンサートの集い」に出かけ、生演奏を楽しまれた。

日中活動の3班集体も4年目の年となる。担当職員を数年固定することで実践

の積み上げを行ってきた。長いスパンでご利用者の変化を捉え、状況に応じて創意工夫をしながら各種取り組みを行ってきた。そうした中でご利用者が関心をもって集中して取り組まれる姿や笑顔で取り組まれる姿が多くみられた。多くのご利用者が集中して取り組まれるステップルが今年度で終了となる。ご利用者の状況に応じた作業内容、作業量、安全性、納期等を含め、ステップルは打ってつけの作業であるが、ステップルに代わる作業の開拓が必要である。

ご利用者の高齢化、重度化のスピードは速く、どの班も体力作りを意識的に取り組んできた。運動に消極的なご利用者が少なくない中、意欲的に運動ができる様な工夫がされてきた。高齢化と共に日常生活での運動量は減少しており、健康維持、体力作りはこれまで以上に課題となっている。

#### ・生活班

「健康維持に努め、毎日の生活が心身共に安定するよう努める」「活動を通して、生活を充実させる」といった目標の下、令和6年度の活動を行った。身体面では、車椅子や手引き歩行、歩行時付き添い等の介助が必要な方が大半で、健康面・体力面で、これまで以上に配慮が必要な班である。主な内容としては、砂防ダム公園までの散歩や寮内歩行、創作（自由画、切り絵、貼り絵、塗り絵、スタンプ押し、ステンシル）自立課題（ puttイン、ペグ挿し、マッチング、生け花等）室内運動（腹筋、スクワット、カラオケ機器を使用した健康体操等）ハロウィン等のレクリエーション、調理実習、買物（調理材料やお茶菓子）、ドライブを行った。

個人に合った作業を模索する中で、自立課題等自身のペースでゆったりと取り組まれる方、ステンシルに関心をもたれ、集中して丁寧に取り組まれる方、カード作りに興味をもたれ、文字とシール等で作成され、職員や来寮者にプレゼントされる方等みられた。創作された作品は、食堂や居室に展示したり、誕生日会や行事のデコレーションに使用したり、年賀状として保護者に送る等して次への意欲につなげた。

ドライブは行きたい方、車の乗り降りができる方を中心に行ってきたが、職員が確保できれば全員出られ、外出機会も提供した。活動時には班の方々が聴き慣れた音楽CD、YouTube等をBGMとして使用し、音楽を使った体操等も取り入れ、リラックスした雰囲気の中で活動を行えるよう心掛けた。また、座っていることが多い方々の足のむくみを改善するため、足専用マッサージャーを活用する等、健康面からのアプローチも引き続き行った。

班の中では年度途中に、一人は高齢者施設に転所され、二人が長期入院となり、一人は骨折が要因となって車椅子の生活になられた。

今後もより活動時における安全確保には十分配慮しながら、体を動かす機会も大切にし、個人特性に応じた体力を維持できるよう、今後も着実な支援や対応が必要とされる。それらを勘案し、班の一人ひとりそれぞれに明確で的を絞った目標を立て、最適な活動内容を考えていくことが大切である。

又個別対応の方が増え、移動や移乗に時間を要するケースが見受けられるため、他班の協力も得ながら、行っている現状がある。その他、トイレ時には職員一人では介助が困難になってきている方もおられ、複数の職員で支援を行い、全体として今まで以上に時間を要する様になっている。

## ・作業班

「活き活きとした姿勢で作業参加出来るように、作業に目標を設定する等して取り組むようにする」「収穫した農作物を使って調理実習をすることで、農作業に対する意識づけを高める」「具体的な計画性を持って作業を進めていく」という目標の下、令和6年度も活動を行った。

作業班の所属は多数の方が所属する班となっているが、年度途中で1名退所され、21名となった。令和6年度も「外」への発信を意識して取り組みを行った。このことが社会経験を積むことに繋がり、より積極的に作業に参加することにつながっている。

新しい取り組みとして、八木駅前毎月第4土曜日開催のめえめえマーケットに八木寮工房 BONO という店名で6月と11月に出品。農作物やレジン等の創作品の販売やゲームコーナーを設ける試みを行った。準備では、野菜を収穫する方、袋詰めする方、花壇の花を摘む方、花を入れる容器をホームセンターに買いに行く方、当日販売を担う方等あらゆる所で班の方々が携わり、盛り上がった。又亀岡夢コスモス園の「かかしコンテスト」に出展して3年目になるが、今年度、最優秀賞を受賞した。人気投票による審査で、わらでの創作という点が目を引いた様で2000票を超える投票だったとのことだった。

他にも創作活動では、複数献立とのコラボレーション、季節や行事に沿った創作、八木町文化祭等への出展を行った。

畑作業では、季節の野菜の栽培他、藍染め用の藍の栽培、椎茸栽培を行ない、花壇整備ではコスモスやカスミソウの栽培を行った。

体力面に関しては、引き続き高齢化が進んでおり、歩行に不安のある方が増加している。それに伴い、散歩については怪我防止のため、回数を減らして室内運動や健康体操を増やし、見守りが少なくても行える作業をメインとして、体力維持に努めた。カラオケ機材を使用する健康体操では歌いながら体を動かすことで、運動が苦手な方でも積極的に動かれていた。健康体操が苦手な方に関しては、体操中に運動器具を使用して運動の機会を提供した。

又調理は皆様好まれ、積極的に取り組まれた。

今後も体力面を考慮すると共に、個々の思いを尊重し、作業に柔軟に向き合いながら、一人ひとりがご自身の活動に誇りをもって取り組んでいただくため、これまで同様作業班を二つに分けて活動すること等、よりよい活動環境の提供が大切である。

## ・基礎班

「楽しく・心地よく・沢山の笑顔が多く見られる活動を目指す」「個々と向き合う時間を大切に、新しい能力の発見を目指す」という目標の下、令和6年度の活動を行った。

散歩では、班の皆様が単独で歩かれる場面がない様、職員と一緒に歩く様にグループを作り、安全面を配慮して取り組んだ。なお、活動を進めるにあたっては、常にペアの組み合わせを考え、できるだけスムーズに楽しく散歩できるよう留意し、蒸し暑い季節には、暑さ対策や安全確保として、散歩時の途中で水分補給を行い、少しでも快適に歩いて頂くための工夫を施した。また、歩行ペースが個々に違うことで、集団での散歩が年々難しくなっているため、今後に向けて、ペアの変更や、ゆっくり歩かれる方々

の別グループ化等、現場状況を考えての配慮が必要になってきている。その他の工夫としては、雨天時や配置職員数の少ない時等は、腹筋、スクワット、踏み台昇降等 筋力トレーニングや器具を使った運動を行った。男性ご利用者は50～100回、女性ご利用者は30～50回を目標に各ご利用者の体調に合わせて行った。

創作活動においては、行事や季節にあった作品作りを進めてきた。手先を使って紙を破ったり、丸めたり、ハサミで切ったり、糊をつけたり、貼る等様々な工程を取り組み、全員で作品を完成させることができた。比較的長時間持続して取り込まれるようになってきていることもこの間の変化である。又ご利用者のペースに合わせてつくる過程を大切にしながら行なってきた。作品は八木町文化祭等に出展した。自立課題については、キューブ等普段では見せられない様な集中した姿がみられる。意欲的に取り組んで頂ける様、一人ひとりに合った自立課題をより模索していきたい。

この他の取り組みとしては、これまで同様、作業参加は集合から始まりとして、開始前には皆様で集まり、開始時の挨拶を行っている。さらに、終了時も同様に挨拶を行うことを大切にしていき、コミュニケーション能力の向上や、協調性を高められればと考える。

楽しく心地よく笑顔が多く見られる活動と、個々と向き合う時間を大切にし、新しい能力の発見を目指すことを目標として取り組み、各自が心地よく、かつ個々の能力が引き出される様な活動をより展開していくことが、今後も求められる。

### 3. 余暇時間の充実と火曜日午後枠活動

余暇時間の充実については、支援の一環としての位置付けはこれまでと変わらず、利用者の趣味や興味に沿って活動内容を設定し、気分転換となるような雰囲気大切にしながら、活動がより楽しくなるように努め余暇活動を提供した。また、関心が持てる事柄については、個々の思いを大切に活動できるよう工夫を施した。社会資源等を利用することで視野を広げると共に豊かな心を育て、より良い人間関係や利用者の個性が引き出されるよう配慮しながら取り組んだ。地道な活動の積み重ねが視野を広げる良い機会となるため、近場の買い物、散歩、創作活動等積極的に取り組んだ。

火曜日午後枠活動についても、基本一人月一回程度の外出とし、毎週外出グループと残留グループとに分かれて活動を実施した。喫茶や買い物、ドライブスルー等は、利用者一番の楽しみになっている。地域に出かけ、店内で好きな食べ物を選ばれ、衣料品をじっくり選ばれる等、ご自分で選ばれ、決められるという貴重な機会となっている。

今後は、要望に応じてボウリングやカラオケボックス等、活動の幅も広げていきたい。また、利用者がより自己実現のために活かせるような活動枠として、充実した支援や対応を行うことで、個々の気持ちに寄り添い、それぞれのペースに合わせて、一人ひとりが楽しめる場面や活動の提供を大切にしながら、きめ細やかな配慮を行い、様々な場面でニーズに応えられるよう努めたい。

### 4. ミュージックケア

7年目を迎えたミュージックケアは、回数を重ねるごとに利用者及び職員に浸透していき、利用者にとって楽しく有意義な取り組みのひとつとなっている。様々な音楽や楽器に触れて心身に快い刺激を与え、情緒の回復や安定を図り、運動感覚、知的機能の改

善を促すことで、利用者の心身と生活に好ましい変化を与えることに繋がる。また、利用者の隠れたストレングスを発見することにより、支援の質の向上も見受けられている。今年度も専門講師による全体セッションを実施（年6回）した。また、寮内セッションは、活動班別で合計29回実施した。寮内セッションでは、4名の有資格者によるローテーションで行ったが、雰囲気や曲の流れが変わり、新鮮な気持ちで取り組める様な仕組みを作って継続した。今後も新たな楽器や曲を導入しながら、一人ひとりが、よりよい気持ちで参加できる様に継続していきたい。年々有資格者も増えており、今年度新たに1名の有資格者が増え、更なる支援の充実に期待をしている。

## 5. 利用者の意見交流（さくらんぼ会）

さくらんぼ会は、利用者全員が自分達の思いや要望を出し合い、考え、決めていくことにより、日々の生活が充実したものになることを目的としている。年度初めに役員を選出し、月1回（木曜日の夕方）全員で集まり、話し合いの場を設けた。話し合いの内容は、行事に向けての希望や、日々の生活の中での要望等があげられた。話し合われた内容は、各娯楽室や職員室に掲示し、要望については改善を図る様努めた。具体例としては、ティータイムの要望が出された。「担当職員から飲み物がもらいたい」という要望であった。経過としては、6年度よりティータイムの提供方法を変更し、作業時間内に設けていたティータイムをやめ、作業のあるなしにかかわらず、毎日夕方にティータイムを設けること、変更に伴って担当職員からその時々提供されていた飲み物は控えるというものだったが、特定のご利用者からは、担当職員からの飲み物提供は続けてほしいというものであった。職員側にも色々な意見が出され、なかなか一つにまとまらずに時間が経過し、結果としてはご利用者の要望に応えることでまとまった。ご利用者からの声に真摯に向き合い、すぐに改善出来ることはすぐ実行すると言う姿勢で、今後も話し合いで出された意見や要望に対し、一つずつ丁寧に改善を図っていきたい。

さくらんぼ会が主となる取り組みは、6年度も大変充実したものになった。特に寮内での取り組みの充実を図った。二つのボランティア「おはなしポケット」様と「五美ひろえ」様、外部からの忍者ショー「陽炎」様と音楽ショー「ミコアポコ」様に、素晴らしいパフォーマンスを披露していただき、盛り上がった。普段見られない様なパフォーマンスに興味津々で身を乗り出し、目を輝かせておられた姿が印象的だった。他、人気の「パンの取り組み」では、会議室を八木寮カフェに装飾し、あゆみ工房様とコラボで取り組み、ご利用者はパンと飲み物をチョイスして喫茶を楽しまれた。飲食関係では、「綿菓子の取りくみ」、「クリスマスケーキパーティ」（ステップル作業の工賃を還元する意味合いを込めて、労をねぎらう取り組み）、調理を実施した。新たな企画として、出張服販売を行なった。アパレル業者に来ていただき、D棟に服販売所を設置した。陳列された数々のお洒落な衣服を手にとり、多くのご利用者が買い物を楽しまれた。又八木寮紅白歌合戦、健康学習会、防災学習会を実施した。地域交流としては、柴山区の「とんど」や清掃に数名参加された。

次年度も、心弾む様な生活、よりよい生活の充実を図れる様な内容を考案していきたい。

## 6. 社会学習支援

利用者の外出希望は多く、火曜日午後粋活動や、夕方の個別対応等の機会に外出を

行った。外出は利用者にとって楽しみの一つで、気分転換を図るものとなり、店内喫茶やコンビニ、近場の衣料店等での買い物、ドライブスルー等を楽しまれた。また、散髪については、今年度も訪問理美容を依頼し、寮内で実施した。

## 7. 地域交流

### ①秋まつり

9月24日(火)開催。保護者、柴山区民、ボランティア、近隣事業所、関係諸機関の方々を招待し、感染防止対策の一環として、食事場所の分散等、密集の状況を回避しての開催となった。利用者は各々法被とはちまきで装い、ゲームコーナー、うた、踊り、カラオケ、食事で楽しまれた他、南丹市キャラクター「さくらちゃん」から一人ずつのプレゼント企画があり、大いに盛り上がった。最後に「八木寮寮歌」を合唱し、仲間と共に秋まつりを創り上げる喜びを分かち合った。

### ②八木西小学校との交流会

11月1日(金)実施。6年生の児童26名が来寮され、ご利用者と共に作業を行った。今回は各支援班とも同じ内容で、Tシャツの絵付けを行った。児童達は積極的で、ご利用者を気遣い行動される姿が随所に見られ、ご利用者に笑顔が広がっていた。最後にD棟でご利用者は歌、児童はダンスを披露された。お互い貴重な経験となり、楽しい交流会となった。

## 8. 年間行事

実施月日	行事及び会議	備考
4月16日	花見	八木寮
4月27日～5月6日	帰宅実習	
6月20日	回転寿司 ①(利用者3名)	八木寮
6月27日	日帰り旅行②(利用者8名)	都ホテル京都八条・嵐山
8月10日～8月16日	帰宅実習	
9月24日	秋まつり	八木寮
10月24日	日帰り旅行③(利用者11名)	ポートピアホテル・他
11月 1日	南丹市立八木西小学校との交流	
12月10日	忘年会	
11月27日	コンサートの集い(利用者28名)	京都府中丹文化会館
12月28日～1月 5日	帰宅実習	

## III. 避難訓練実施状況

実施年月日	実施内容等
10月15日(火)	夜間総合・火災訓練
3月25日(火)	土砂災害を想定した避難訓練・防災訓練・BCP訓練

## IV. 職員研修

(寮内研修)

5月 9日 ミュージックケアセッション 講師 伊藤美恵 氏  
 6月 6日 ミュージックケアセッション 講師 伊藤美恵 氏  
 7月16日 虐待防止・身体拘束適正化研修 講師 伊藤美恵 氏  
 8月 1日 ミュージックケアセッション 講師 伊藤美恵 氏  
 10月 3日 ミュージックケアセッション 講師 伊藤美恵 氏  
 10月15日 BCP研修 寮長  
 11月12日 緊急時対応訓練 保健衛生  
 11月19日 OJT伝達研修  
 12月 5日 ミュージックケアセッション 講師 伊藤美恵 氏  
 12月16日 ミュージックケア伝達研修  
 2月25日 保険証についての研修 保健衛生  
 2月27日 ミュージックケアセッションと研修 講師 伊藤美恵 氏  
 3月25日 職員向け腰痛研修 講師 中野 樹 氏

(寮外研修)

日本知的障害者福祉協会、京都知的障害者福祉施設協議会、京都府社会福祉協議会  
人材・研修センター等の研修会に順次参加

5月17日・6月21日 キャリアアップ研修(中堅職員)  
 5月30日・7月5日 キャリアアップ研修(チームリーダー)  
 6月13日 OJTリーダー養成研修  
 8月 8日・9月26日 OJTリーダー養成研修  
 8月24日・25日・26日 第27回ミュージックケア滋賀大会  
 9月 6日・10月2日 キャリアアップ研修(初任者)  
 11月 3日 強度行動障害支援者 養成研修 実践研修  
 11月14日 福祉職場研修担当リーダー研修  
 11月27日 保育実習について現場の先生方と共に考える勉強会  
 12月 5日 京都府障害者虐待防止・権利擁護研修  
 12月19日 強度行動障害支援者 養成研修 実践研修

## V. 保健衛生に関する報告

### 1. 年間通院及び入院状況

科 目	通 院						入 院	
	男		女		合 計		男	女
	延 数	実人数	延 数	実人数	延 数	実人数		
精 神 神 経 科	288	25	195	20	483	45	2	1
内 科	34	14	91	12	125	26	1	1
外 科	13	9	11	4	24	13		
整 形 外 科	2	3	19	4	21	7		
耳 鼻 科	5	5	8	7	13	13		
眼 科	3	1	19	2	22	3		
皮 膚 科	14	8	23	5	37	13		

婦人科			9	1	9	1		
歯科	69	13	44	13	113	26	1	
泌尿器科	2	1	1	2	3	3		
合計	430	80	420	70	850	150	4	2

#### 入退院状況

令和6年 3月29日～4月8日 京都中部総合医療センター 女性入院(61)  
 令和6年 5月23日～9月3日 いわくら病院 男性入院(36)  
 令和6年 6月4日～9月3日 9月17日～11月7日 いわくら病院 男性入院(59)  
 令和6年 7月23日～7月26日 京都中部総合医療センター 男性入院(42)  
 令和6年 10月31日～11月28日 京都中部総合医療センター 女性入院(64)  
 令和6年 11月13日～ 黄檗病院 女性入院(61)  
 令和7年 1月17日～ 京都中部総合医療センター 女性入院(58)

#### 2. 月別受診件数

月 性別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男子	37	41	24	41	34	37	32	38	38	31	36	41	430
女子	47	38	22	46	31	42	34	40	31	32	25	32	420
計	84	79	46	87	65	79	66	78	69	63	61	73	850

#### 3. 投薬状況

科	目	人数
精神神経科		45
内科		26
整形外科		1
婦人科		1
泌尿器科		3
その他		47
合計		123

#### 4. 定期処置状況

科	目	人数
内科		3
外科		2
整形外科		1
耳鼻科		0
眼科		3
皮膚科		47
その他		0
合計		56

#### 4. 処置内容

内科 摘便・腹部マッサージ 浣腸 採血 医師の指示処置  
 外科 消毒・ガーゼ交換 医師の指示処置 褥瘡管理  
 整形外科 塗り薬塗布・湿布交換 装具装着 包帯・三角巾等の管理処置  
 眼科 点眼 軟膏塗布  
 皮膚科 塗り薬塗布 投薬調整  
 耳鼻科 点耳 点鼻

## 5. 検診・検査実施状況

検 診 ・ 検 査 等	実 施 年 月 日
子 宮 癌 ・ 乳 癌 検 診	令和6年 5月16日
一 斉 健 診	令和6年 6月11日
夜 勤 従 事 者 健 診	令和6年11月26日
職 員 胃 透 視	令和6年 6月11日
耳 鼻 科 健 診	令和6年 7月17日
眼 科 検 診	令和6年 7月31日
インフルエンザ予防接種	令和6年11月 6日
一 斉 検 診 ( 2 回 目 )	令和6年11月26日

その他

- ・精神科検診・・・月一回
- ・口腔クリーニング・・・月二回（支援班別）

## 6. 入退所（契約解除）状況

退 所 令和6年 11月15日 男性（23）転所  
 令和6年 11月28日 女性（63）入院にて退所  
 令和6年 12月23日 男性（74）転所  
 令和7年 3月31日 男性（43）入所

## 7. 総合評価

昨年と同様に利用者の高齢化進行が課題となる一年であった。車椅子や歩行器を使用される方、ADLが低下される方が増え続け、通院回数も大幅に増加し続けている。医療サポートが必要な方も多く、医師や病院側と共に、今後についての話し合いの場が増えた1年であった。職員への研修も高齢化やADL低下の方へのサポート支援を再確認、学ぶことを重点的に考え実施。より障害者の高齢化について考える機会も増え、引き続き個々の利用者に合わせて支援や、体調の管理を継続していく。一人ひとりの内服薬や貼用薬、塗布薬も種類が増す中、細かいチェックや保管、医師や薬局との連携を強化している。

利用者の高齢化に益々拍車がかかる中、施設設備も追いついていない箇所があるも、今年度から特殊浴槽を導入。今以上に利用者が安心して生活できるよう、少しずつ改善していければと考える。

（以下の研修を実施）

4月 23日 除圧ポジショニング研修  
 4月 23日 新人職員ノロ処理研修  
 5月 28日 新人職員ノロ処理研修  
 7月 11日 熱中症研修(利用者対象)  
 7月 23日 特殊浴槽使用研修  
 8月 6日 新人職員ノロ処理研修  
 9月 10日 救急救命講習 WEB 講習  
 9月 17日 救急救命講習  
 10月 8日 感染予防 PEE 着用研修  
 11月12日 緊急時対応訓練  
 11月12日 ノロ処理研修  
 12月21日 感染症予防研修(利用者対象)

- 1月 21日 ノロ研修(追加)
- 2月 25日 保険証研修(保健衛生対象)
- 3月 4日 新人職員蘇生処置同意研修
- 3月 25日 腰痛研修

## VI. 給食栄養指導報告

楽しく食事を摂ることを目的に、年4回の給食の取り組み・複数献立を始め、利用者の嗜好調査の反映や催事を取り入れた献立、全国の郷土料理等を取り入れた献立等、工夫を凝らした食事提供を行った。

また、利用者の高齢化に伴い、嚥下機能低下による配慮食作成や、健康面からの特別食等も、昨年度同様に重点を置き取り組んだ。

### 1. 栄養管理

	エネルギー	タンパク質	脂肪	カルシウム	鉄	ビタミンC
施設栄養所要量	2,300	86.2	61.6	643	11.0	92
年間平均栄養摂取量	2,308	85.8	57.3	586	12.8	103

### 2. 給食上の留意点

- ・利用者の嗜好調査を行い、嗜好を十分取り入れ、栄養バランスのとれた献立作りを行った。
- ・給食日誌、検食簿を作成することにより、各食事の内容に対する意見を日々の食事の改善点とした。
- ・給食会議や献立会議を行うことで、委託業者との情報交換や、内容の共有化を図る事ができた。その結果として、日々の食事の改善に役立つことができた。
- ・栄養ケアマネジメントについては、栄養状態を低リスク、中リスク、高リスクに分け、3ヶ月、1ヶ月、2週間ごとにモニタリングをし、関連職種と連携を行い、栄養計画を作成した。
- ・保存食は原材料、調理済みのものを14日間冷凍保存した。
- ・「温かさは美味しさ」をテーマに保温庫の活用や配膳時間等の工夫を行い、冬場の温かい食事提供を行った。

### 3. 食事計画

- ・一汁一飯二菜以上とし、献立内容の打合せをしっかりと行うことで、利用者に喜んでいただけ、健康状態にも配慮した食事計画を行った。
- ・季節感や旬を取り入れた献立や、全国各地の郷土料理も月一回程取り入れ、バラエティー豊かな献立を演出した。
- ・献立表は一週間ごとに、文字だけでなく料理写真を取り入れて掲示を行った。

### 4. 調理上の留意点

特別食	人数
脂肪配慮食	13名
減塩食	6名
アレルギー食品除去食	5名
ヨード制限食	1名
低ナトリウム血症食	2名
栄養補助飲料	5名
マンナンライス	8名
とろみ食	7名

配慮食	人数
軟菜食	12名
粥食	1名
軟飯	2名
細切れ食	20名
刻み食	11名

※重複者あり

- ・特別食については、健康診断結果や血液検査結果を基に、医師・看護師と相談の上、適時対応した。また、年齢・性別・体重等による個人差についても、主食で加減を行った。
- ・嚥下困難者には、とろみ剤を使用して嚥下がスムーズに行えるように対応し、細切れ食、刻み食等の食事配慮を行うことで、より一層の注意を行った。
- ・魚はすべて骨抜きの魚を使用した。
- ・体調不良等の利用者の方には、体調や嗜好に応じた食事を提供した。

## 5. 衛生管理

- ・給食従事職員の毎月の検便（0抗原）を実施し、検査記録を保管した。
- ・貯水槽を使用している為、定期的な清掃、水質検査を実施した。毎日、飲料水の水質検査を朝・夕に測り記録した。
- ・食材等の納品の際には、月日・業者名・配達時間・品名・表面温度を確認して記録した。
- ・専門業者によるゴキブリ駆除・防除を年4回実施した。
- ・専門業者によるグリストラップの清掃を年12回依頼した。
- ・専門業者による食堂の床の水洗い(毎月)・ワックス掛け(隔月)を実施した。

## 6. 災害用の備蓄食品

災害に備えての防災食（非常食）を3日分備蓄保存し、賞味期限・消費期限を明記し、記録した。

## 7. 複数献立

数種類のメニューの中から自分で好みの食事を選び、楽しい食事を年2回実施した。

10月 8日	サンド又ホットドック
1月21日	選べる麺類

## 8. 行事食

月 日	内 容	月 日	内 容
4月 1日	春の祝い膳	11月 3日	文化の日
4月16日	お花見弁当	11月26日	給食の取り組み[海鮮丼]
5月 5日	端午の節句	12月10日	忘年会
5月15日	葵祭り	12月21日	冬至
6月21日	夏至	12月25日	クリスマス
6月30日	水無月	1月 1日	正月
7月 7日	七夕	1月 7日	七草
7月 9日	給食の取り組み[錦弁当]	1月15日	小正月
7月17日	祇園祭り	2月 2日	節分
8月16日	五山の送り火	2月 6日	初午
9月16日	敬老の日	2月20日	給食の取り組み[焼肉弁当]
9月17日	中秋の名月	2月25日	梅花祭り
9月24日	秋まつり	3月 3日	ひな祭り
10月22日	時代祭り	3月 6日	給食の取り組み[油淋鶏]
10月31日	ハロウィン	3月27日	桜の日

※年間を通して、給食の取り組みや季節の催事食、行事食を提供し、利用者に喜びと感動を味わえる食事を提供した。

## 9. 食事時間

朝 食	昼 食	夕 食	間 食
8 : 0 0	1 2 : 0 0	1 7 : 3 0	日曜日のみ 1 5 : 0 0

※利用者が安心・安全に食事をして頂けるように、職員配置や時間の調整等を随時検討し、朝・昼・夕の各食事時の見守り強化を図った。

## 10. 平均喫食数

	朝 食	昼 食	夕 食
利 用 者	4 7	4 7	4 7
職 員	3	1 2	0
合 計	5 0	5 9	4 7